

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和 7 年度 第 2 回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会		
事務局 (担当課)		土木部交通政策課		
開 催 日 時		令和 7 年 7 月 1 5 日 (火) 14 : 00～16 : 00		
開 催 場 所		アステ市民プラザ ルーム 4		
出 席 者	部 会 員	日野 泰雄、田中 祥敬 (代理出席)、中澤 栄二 (代理出席)		
	地 域 代 表	植木 信嘉、嶋川 幸三		
	事 務 局	【土木部交通政策課】 大村課長、金森課長補佐		
傍聴の可否		否	傍 聴 者 数	—
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由		川西市地域公共交通会議規則第 5 条第 6 項の規定により非公開		
会 議 次 第		1. 開会 2. テーマ (1) 運行に係る費用と目標数値について (2) 実利用者数の実績と比較について (3) ワークショップについて (4) その他 3. 閉会		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		

概要

1. 開会

2. テーマ

(1) 運行に係る費用と目標数値について

〈主旨〉運行にかかる経費と目標数値（実利用者数）、また、令和6年10月～令和7年4月の実利用者数の共有を図る。

〈主な意見〉

- ・定期は30日なので60回タッチする形で輸送人員をカウントしていたが、実タッチ数に変更する。
- ・人件費は上昇トレンド。平日30便の39,713千円というのは2024年の数値になるので、2025年10月から2026年9月期ではさらに上がる予想。
- ・実利用者数として①PiTaPa・ICOCA・hanicaの実タッチ数（定期券を除く）、②定期券の実タッチ数、③現金利用者の推計は現金収入÷一人当たりの単価で算出（①の収入÷①の実タッチ数＝ICカード利用者の一人当たりの単価（定期券利用者以外））としている。この算式で算出した数値として24,713千円の収入を得るためには実利用者数としては114,891人必要となり、目標としては115,000人としている。

(2) 実利用者数の実績と比較について

〈主旨〉

令和5年10月～令和6年9月と令和6年10月～令和7年5月までの実績と比較の共有を図る。

〈主な意見〉

- ・通学定期利用者が増加している
- ・通学定期が増えている状況であり、運行時間を夜にずらすと学生への影響が大きくなるので、ダイヤについてはこのまま静観した方がいい
- ・4月、5月が減少しているので今後は不透明であるが、通勤定期の売上や利用状況を見ると大きくは変化がない。

(3) ワークショップについて

〈主旨〉

ワークショップの開催（参加者や議題）について協議する。

〈主な意見〉

- ・8月下旬から9月上旬の開催を考えている。日程を早急に決めることと、周知方法もチラシを全戸配布するのか大和ニュースに掲載するのか等、決める必要がある。
- ・参加者は、利用者と非利用者。議題は現在の問題点と将来に向けた問題点となる。人が集まらなければ今回は利用者と非利用者だけ集めてもらってもいい。非利用者を集めることは困難であると思うが、効果的な方法を地元で話し合っていたきたい。
- ・将来のあり方を検討するためには、いずれかの段階で若い人の意見を聞く必要がある。若い人が参加できる曜日や時間帯についても検討していただきたい。

(4) その他

- ・11月3日の大和カーニバルについて、阪急バスに参加いただきたい。
- ・阪急バスとしては、1つ1つの自治会に対応することは困難。学校の授業で実施してもらえないか。牧の台小学校の全学年で1時間授業を実施してもらえたらカーニバルの日にバスを持っていくというイメージ。

3. 閉会